



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)静岡市御厨駅前計画 新築工事	BEE	2.1	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.7 /5		ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.3 /5		ふつう	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.4 /5		ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.6 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上	
			ふつう 3 点以上	
			がんばろう 3 点未満	

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点		3.7			
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③ glare対策/④部品・部材の耐用年数) ①室内環境向上を目指し断熱性能の向上や遮音対策等を施している。 ②住戸の南側に大きく開口を設けている。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤道路境界線に沿って緑地を配置することで、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑨設備システムを効率化し、省エネルギー化に配慮している。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑫躯体と仕上げ材が容易に分別可能なようにしている。 ⑬有害物質を極力使わない計画としている。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭LCCO2の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮している。</p>	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能	
	Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備	
				3.2	3.2.1	③	昼光制御
	Q-2	2	2.2	2.2.1	④	躯体材料の耐用年数	
			2.2.2	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔		
			2.2.3	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
			2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
			2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
			2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
		Q-3	1		⑤	生物環境の保全と創出	
			3	3.2	⑥	敷地内温熱環境の向上	
		LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制	
			2		⑧	自然エネルギー利用	
			3		⑨	設備システムの高効率化	
			4	4.1	⑩	モニタリング	
				4.2	⑩	運用管理体制	
		LR-2	1	1.1	⑪	節水	
			1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
				1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
			2	2.1	⑫	材料使用量の削減	
				2.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
				2.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
				2.4	⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
				2.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材	
				2.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
			3	3.1	⑬	有害物質を含まない材料の使用	
				3.2	⑬	消火剤	
				3.2.1	⑬	断熱材	
				3.2.2	⑬	断熱材	
				3.2.3	⑬	冷媒	
		LR-3	1		⑭	地球温暖化への配慮	
			2	2.2	⑮	温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点		3.3			
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑯耐震等級2相当 ⑰構造躯体劣化対策等級3</p>	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性	
					2.1.2	⑯	免震・制振性能
				2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備
				2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
				2.4.3	⑰	電気設備	
				2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
				2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点		3.4			
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲居室は標準的なベッド等の家具を配置できる程度の広さを確保し、天井高は2.4m以上とすることで優れた居住性能を持つ計画としている。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑道路境界線に沿って緑地を配置することで、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。</p>	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり	
				3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ	
		Q-3	3	3.1	⑳	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点		2.6			
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ⑳アプローチ周りに十分な外構植栽計画を行った。</p> <p>■敷地外環境対策 (㉑持続可能な森林から産出された木材/㉒温熱環境悪化の改善)</p>	Q-3	1		⑳	生物環境の保全と創出		
		2			㉑	まちなみ景観への配慮	
		3	3.2		㉒	敷地内温熱環境の向上	
	LR-2	2	2.5		㉑	持続可能な森林から産出された木材	
	LR-3	2	2.2		㉒	温熱環境悪化の改善	

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)磐田市御厨駅前計画 新築工	階数	地上11F
建設地	静岡県磐田市新貝一丁目8-1	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	344 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年4月30日
敷地面積	3,444 m ²	作成者	楠原愛梨
建築面積	897 m ²	確認日	2024年4月30日
延床面積	6,653 m ²	確認者	田中大介



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 71%
③上記②以外の 71%
④上記+ 71%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合	周辺環境に配慮するとともに、建物形状や色彩が周辺環境と調和するように計画する。 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	その他 特になし
Q1 室内環境	室内環境向上を目指し断熱性能の向上や遮音対策等を施している。	Q2 サービス性能 居室は標準的なベッド等の家具を配置できる程度の広さを確保し、天井高は2.4m以上とすることで優れた居住性能を持つ計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	道路境界線に沿って緑地を配置することで、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。	Q3 室外環境(敷地外) ・適切な駐車スペースを確保しています。 ・LCCO ₂ の排出量を低くするよう努め、地球温暖化に配慮している。
LR1 エネルギー	設備システムを効率化し、省エネルギー化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル ・躯体と仕上げ材が容易に分別可能なようにしている。 ・有害物質を極力使わない計画としている。
LR3 敷地外環境		

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される